

かわすじ今日談

筑豊総局長
友安 淩

も増え、危機を脱する。
出版されたのは2008年。

「ラチナタウンですよ、柳周平さんの小説」。先月、かわすじ今日談で「自治体消滅の危機」を取り上げた直後だった。筑農総局を訪ねてきた男性はそちり出した。子どもを産む若い世代の流失を防ぐ手段の一として、私は「都会から高齢者を受け入れて介護・医療に手厚い自治体を目指せば、地域の介護・医療の分野など、若者が働ける場をつくること」になりました」と書いた。それが「ラチナタウン」を連想させたのだそうだ。

物語は、出世街道を外された総合福祉部長が、やけ酒をあおつた勢いで、故郷の町長選出馬を引き受けたところから始まる。過疎化が進む人口1万4千人の町。9期36年務めた前町長時代、地元の有力政治家の力を頼りに、一気に1・6倍に膨らみ、税収

ラチナ社会を築く

「ラチナタウン」の一歩先を見据えている。松田さんはキーワードとして、「きょうあつときょうぶく」をあげた。「教養と教育」かと思えば、「今日用と今日行く」とか。アイデアが「处方箋のよう」という設定。新町長になつた主人公は財政マッチに着目したり、無駄などを省略したり、無駄をなくして、これまでいた過去の公共事業を活用

住宅を建てても、芳しい成果が上がらない中、あの手この手の自治体の再生を狙つて高齢者用住宅を建てる、介護や医療の充実で、介護・アイデアが「处方箋のよう」という設定。新町長になつた主人公は財政マッチに着目したり、無駄をなくして、これまでいた過去の公共事業を活用

も増え、危機を脱する。
出版されたのは2008年。

「ラチナタウン」の一歩先を見据えている。松田さんはキーワードとして、「きょうあつときょうぶく」をあげた。「教養と教育」かと思えば、「今日用と今日行く」とか。アイデアが「处方箋のよう」という設定。新町長になつた主人公は財政マッチに着目したり、無駄をなくして、これまでいた過去の公共事業を活用

ト・ラミヨニティ（RC）といふ、退職後をのんびり暮らすシニア向けの街づくりが行われた。レジャー中心でゴルフに明るい、用事があり、行く場所があることが健康な生活を送る上でも大切なのだろう。松田さんは「介護」。健康な人の住居棟と同じ敷地内に軽介護・重介護・認知症棟をそろえるケア継続型（CCRC）の普及が不安を和らげた。ゴルフなど遊び中心に「知的の刺激がない生活」や街に若者が少ない「世代の偏り」といった課題に対応するため、大

にする視点」と指摘する。営業マン、エンジニアといった現役時代の仕事を生かして産業振興する大学連携型CCRCなども設ける。そうすることで、入居や教育など、新たな活躍の場を誕生しているという。

日本ではラチナ社会のビジネスモデルは確立していない。日本ではラチナ社会のビジネスモデルは確立していない。松田さんはよほど、米国では豊富なモデルを模索してはどう

研究センター主席研究員の松田智生さんは米国の研究などから

1960年代からリタイアメン

か。

秋田銀

60社・団体と研究会設立

高齢者が住みよいまちを

「秋田プラチナタウン研究会」設立総会



60社・団体
が名を連ね
た秋田プラ
チナタウン
研究会の初
会合

年で遅く
18%、高齢化率
が31.6%と
いずれも全国
最高。一方、
厚生労働省の
国立社会保障
・人口問題研
究所の推計
で、2025年
に首都圏の
高齢者が10年
と比べ約23%

会員には医療福祉、建設、交通などの企業やNPO法人、大学の60社・団体が名を連ねた。約60人が出席した会合で遅く、秋田市で開かれた。アドバンテージと捉え、高齢者をはじめとしたあらゆる世代が住みやすく生きがいの持てるまちを秋田モデルとして全国に発信したい」と述べた。

本県は人口減少率が年々

約0.1%増えるとされるなど、

今後は大都市圏の高齢化が急

速に進む。

研究会は、多業種の連携によつて医療福祉の充実とともに

自然との共生や交流を楽し

める環境の整備を図り、都市

部の高齢者に移住を促す。健

康、娯楽、宅配といったサー

ビス産業の振興を人口減の抑

制につなげるほか、移住者が

持つノウハウを活用した県内

企業の競争力強化も目指す。

環境向上に関わる産業の雇用創出と消費拡大を目指す。同日、秋田市のヤタカで初会合を開いた。

移住促進へ環境づくり

秋田銀行（渡辺隆夫頭取）は21日、高齢者の暮らしやすいまちづくりで地域活性化を図る「秋田プラチナタウン研究会」を県内の企業や大学と設立した。首都

圏からの高齢者移住促進を視野に、医療福祉など生活環境向上に関する産業の雇用創出と消費拡大を目指す。同日、秋田市のヤタカで初会合を開いた。

年度内に会合を2回開き、米国で普及している高齢者向け生活共同体「CCRC」を参考にまちづくりの在り方を接して「ゴルフ場などのレジャー施設や医療介護の拠点を構築して、高齢者が健康状態にかかわらず同じ地域で生

活を続けられる」という。研究会は来春、テーマごとに分科会を設置し、ハード、ソフト両事業の計画と実施体制を協議、16年秋から試験的な事業に取り組む予定。秋田銀は事務局として意見を集約するほか、必要に応じ会員以外の企業の参画も働き掛け

る。政策提言団体「プラチナ社会研究会」を設立した三菱総合研究所と、東大高齢社会総合研究機構の後藤純特任助教太郎執行役員と後藤助教が高齢化社会に対応したまちづくりについて講演した。

（佐藤朋紀）

持続可能な地域づくりで研究会

高齢者の健康テーマ

三菱総合研究所と日本
不動産協力機構（JAR
ECO、代表理事・中川
雅之）は、日本大学経済学部教
授）は、健康・高齢者・
省エネに対応した持続可
能な地域づくりの具体的
な施策を検討するため、
「サステナブル・プラチ

・魅力を高める対応▽都
市・地方間の交流と協働
を進める必要があると
指摘している。

その成功モデルとし
て、健康な時から介護が
必要となる時まで移転す
ることなく安心して暮ら
し続けることができる米
国のシニア「コミュニティ
ー・Care Continui
ng Care Retirement
ment Community

三菱総合研究所と日本
不動産協力機構（JAR
ECO、代表理事・中川
雅之）は、日本大学経済学部教
授）は、健康・高齢者・
省エネに対応した持続可
能な地域づくりの具体的
な施策を検討するため、
「サステナブル・プラチ

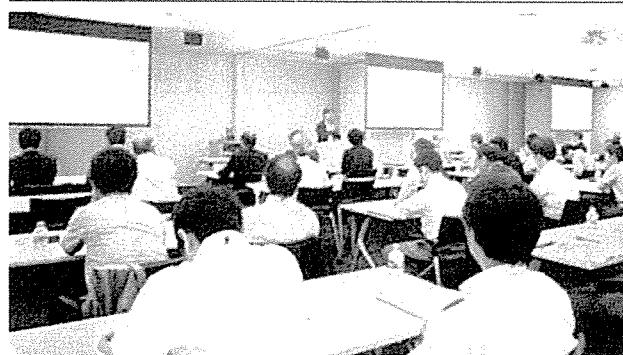
研究会では、人口減少
市空間・地域資源の価値

・超高齢化社会の中で高
齢者が健康で元気に暮ら
せる住まいづくりと持続
会システムのあり方を問
い直し、15年度を目標に
可能な地域づくりを推進
するためには、▽高齢者
の住まいの快適性や水準
の向上▽多世代共創型の
社会システムの構築▽都
市を挙げ、日本版CCRC
を口指す方針だ。CCRC

Cは米国全土に約200
0カ所あり、約60万人が
生活。市場規模は約3兆
円に上るという。

10日に東京都内で研究
会のキックオフセミナー
が開かれ、写真、松田智
生三菱総合研究所プラチ

ナ社会研究センター主席
会の座長を務める中川
A R E C O 代表理事は
「地域社会を維持するた
めのテーマは人口減少と
高齢化。実現可能な政策
スキームやプロジェクト
を考え、社会に還元して
いきたい」とあいさつ。
参加者に活発な議論を求
めた。



A R E C O 代表理事は
「地域社会を維持するた
めのテーマは人口減少と
高齢化。実現可能な政策
スキームやプロジェクト
を考え、社会に還元して
いきたい」とあいさつ。
参加者に活発な議論を求
めた。

研究員、小林光慶（大政
策・メディア研究科兼轄
子内閣府政策統括官（主
任社会政策担当）付高齢
社会対策・少子化対策担
当参事官、坂根工博（国
交省住宅局住宅政策課
長が行政や民間の取り組
みをそれぞれ紹介した。
セミナーの冒頭、研究
会の座長を務める中川
A R E C O 代表理事は
「地域社会を維持するた
めのテーマは人口減少と
高齢化。実現可能な政策
スキームやプロジェクト
を考え、社会に還元して
いきたい」とあいさつ。
参加者に活発な議論を求
めた。

高齢社会先進国日本。今後約〇〇万人の団塊の世代が定年を迎えるが、充実した老後は約10万時間と算われる定年後の自由時間の過りし方にかかるとしている。

米国におけるリタイアメント・コミュニティ CCRC

米国では、介護施設に隣接して住居や娯楽が整備されたリタイアメント・コミュニティといふ街があり、フロリダ、アリゾナなどの温暖な地域で多数開発・運営されている。

「カルフ三昧」の理念郷は大きさを普及しているが、課題を幾つか表面化してきた。



プラチナ社会研究センター
主任研究員 松田 智生

三菱総合研究所

Think tank Report

シンクタンク リポート

(図) あだ用々の家臣は介護になつてゐる

安心して暮らす

平均年齢84歳、入居率88%

大学連携型CCRC

も同じであり、経済的・精神的な負担感が軽減される。

東海産の名門校タマス大学

から介護施設で同一敷地で継続的にケアを受けられ、移転の心配がない安心して暮らす」とあります。

さわでこね。
注目すべき点は、「大差街」というコンセプトだ。地元の市は人口約1万人口で、その半数がデータマス大学の関係者で、アカデミックな活動を感じられる。あだ大

してこら。その声を紹介したい。

学の生涯開拓、歴史、文学、音楽、健康、園芸、環境、健康新たな多彩な約50の講座でシニアの知的好奇心を満たしておる。CCRCの多くの居住者が樂講してこら。ではアカデミックなアカデミックなスタイルを送っているのだ

高齢者住宅における CCRCの概念

第一の介護施設問題を解決したのが、CCRC(Continuing Care Retirement Community)だ。日本のお高齢者の介護施設は未だ約70存在する。例えば、マサチューセッツ州のラッセル・ビレッジは、入居率は98%で、経営面も順調で、地元に多くの雇用を生み出した地域社会に貢献している。

大学では、シニアが自分の経験を譲り受けたり、学生のキャリア・アドバイザーにもなる。シニアは学生たちを教えるなど、「何かに打ち込んでくる」、「誰かの役立つてこる」などの情感を得たり、充実した老後を送る」などが、CCRCの経営で重要な役割だ。

高齢者住宅におけるCCRCの概念

米国	IL：健常者用 Independent living	AL：軽介護 Assisted living	NH：市介護 Nursing home	MS：認知症 Memory support
日本	一般住宅 戸建・集合	サ高住	有料老人ホーム グループホーム 老健施設	特別介護 老人ホーム
年代	60歳～70歳代夫婦	70歳代独居高齢者	80歳～寝たきり	

CCRCは①シニアの健康、生活②地域社会の雇用③企業の新規事業④大学の活性化という四方一回得をもたらす。しかし、CCRCは単にシニア住宅を建設する事業ではない。住居、健康、介護、学習、社会参加、保険、資産運用など様々な要素を組み合わせたライフスタイル・ビーチであります。建設した後の運営が特に重要になります。ゆえに綿密な事業計画や高度な運営ノウハウが求められる事業である。

CCRCは、超高齢社会を迎える日本で、地域活性化やビジネス、多くの分野を拓いていく。

四方一両得のライフスタイル・ビジネス

田舎的だったのは、彼の昔の話を使ひんど話もない」とある。成功したシニアが過去の面接話にならぬかだが、今が中になつていていたことを繰り返す。アケティッシュな「過去を語るのでない、今を語る」のだ。

超高齢社会を迎える日本へも示唆

(左) まつだ・ともお 駐在大使
部政策室幹事。専門は高齢化社会の新産業政策・地域活性化。10年に三菱総研の新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を立ち上げる。文部科学省生涯学習ネットワークフォーラム企画委員会、石川県ニッヂナップ企画評議會。

○88歳・男性

気に入っているのは、ハーバードの運営が居住者に提供されている」といふとだよ。今は、ハーバードの雑誌の編集室に入った時と同じ感覚だ。